

平成30年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (次期学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
石川県

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
石川県	特別支援学校	知肢	いしかわけんりつめいわとくべつしえんがっこう 石川県立明和特別支援学校

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成 30 年 4 月 10 日	○全体研究推進委員会①の開催 本事業 (第二年次) の研究推進全体計画の立案と研究推進体制構築	・各学部研究の進捗状況と学校全体の取組についての共通理解とその評価
4 月 11 日	○学部研究推進委員会及び学部研究会の開催 学部研究推進計画及び研究内容の確認 研究授業の実施と評価	・学部内研究の進捗状況及び研究授業等における指導方法や児童生徒の変容等に対する評価
5 月 10 日	○校内研修会 前年度までの学校研究の概要と今年度の研究の方向性の周知	
5 月 11 日	○学部研究推進委員会及び学部研究会の開催 研究授業の実施と評価	・学部内研究の進捗状況及び研究授業等における指導方法や児童生徒の変容等に対する評価
5 月 25 日	○共同研究者による学部研究協議会 (小)	・研究及び指導内容等に対する共同研究者からの評価
5 月 15 日	○全体研究推進委員会②の開催	
6 月 6 日	○学部研究推進委員会及び学部研究会の開催 研究授業の実施と評価及び指導方法等の検討	・学部内研究の進捗状況及び研究授業等における指導方法や児童生徒の変容等に対する評価

6月15日	○共同研究者による学部研究協議会（中・知高・肢高）	・研究及び指導内容等に対する共同研究者からの評価
7月6日	○学部研究推進委員会及び学部研究会の開催	
7月27日	○校内全体研修会（外部講師招聘）の開催	
7月24日	○全体研究推進委員会③開催	
8月21日	○学部研究推進委員会及び学部研究会の開催	
8月3日	○授業づくりに生かすICT校内研修会①	
8月29日	○全体研究推進委員会④開催	
9月5日	○総合訪問（県教委）の開催	・研究授業等に対する県内指導主事等からの評価
9月14日	○共同研究者による学部研究協議会（中・知高）	・研究及び指導内容等に対する共同研究者からの評価
9月10日	○学部研究推進委員会及び学部研究会の開催	・「つきたい力を考えるシート」による指導内容の改善状況の評価
	研究授業の実施と評価及びつきたい力を考えるシート（試案）の検討等	・研究授業等における指導方法や児童生徒の変容等に対する評価
9月21日	○全体研究推進委員会⑤開催	・各学部研究の進捗状況と学校全体の取組についての評価
	学部研究の進捗状況の確認及び研究紀要の骨子検討	
10月12日・29日	○共同研究者による学部研究協議会（小・肢高）	・研究及び指導内容等に対する共同研究者からの評価
10月10日(小) 10月15日(中高)	○学部研究推進委員会及び学部研究会の開催	・「つきたい力を考えるシート」による指導内容の改善状況の評価
	研究授業の実施と評価及びつきたい力を考えるシート（試案）の検討等	・研究授業等における指導方法や児童生徒の変容等に対する評価
10月27日・ 10月23～25日	○県外先進校視察（中・知高①）	
11月6日	○全体研究推進委員会⑥の開催	・各学部研究の進捗状況と学校全体の取組についての評価
11月26日	○学部研究推進委員会及び学部研究会の開催	・学部内研究の進捗状況及び研究授業等における指
	研究授業の実施と評価及び研究課題の検討等	

	研究課題の検討及び研究紀要のまとめ	<p>導方法や児童生徒の変容等に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の各学部研究の取組における成果と課題についての分析・評価
11月27～29日 11月13～14日 11月26～30日	○県外先進校視察（小・知高②・肢高）	
11月22日	○教材開発セミナーに向けた教材・指導案検討会の実施	
12月17日	○学部研究推進委員会及び学部研究会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・学部内研究の進捗状況及び研究授業等における指導方法や児童生徒の変容等に対する評価 ・「つきたい力を考えるシート」による指導内容の改善状況の評価
	研究授業の実施と評価及びつきたい力を考えるシート（試案）の検討等	
12月7日	○教材開発セミナー（外部講師招聘）の開催	
12月26日	○授業づくりに生かすICT校内研修会②	
12月25日	○全体研究推進委員会⑦の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の各学部研究及び学校全体の取組に対する成果と課題についての分析・評価
	今年度の総括及び次年度に向けての計画	
平成31年1月18日	○全体研究推進委員会⑧の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の各学部研究及び学校全体の取組に対する成果と課題についての分析・評価
	今年度の研究の総括及び研究報告会の検討	
1月16日	○学部研究推進委員会及び学部研究会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・学部内研究の進捗状況及び研究授業等における指導方法や児童生徒の変容等に対する評価 ・「つきたい力を考えるシート」による指導内容の改善状況の評価
	今年度研究の総括及びつきたい力を考えるシート（試案）の検討等	
2月1日	○研究紀要（報告書第2年次）、つきたい力を考えるシート（試案）冊子発行	
2月1日	○校内研究報告会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による各学部の研究内容や研究授業等における共有状況に関する分析・評価

2月8日	○学部研究推進委員会及び学部研究会の開催	・今年度の各学部研究及び学校全体の取組に対する成果と課題についての分析・評価
	今年度の研究総括	
3月22日	○全体研究推進委員会⑨の開催	・今年度の各学部研究及び学校全体の取組に対する成果と課題についての分析・評価

(2) 研究課題

特別支援学校における各教科等の改善・充実に向けた、育成を目指す資質・能力を踏まえた指導内容等の改善及び「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業実践

(3) 研究の概要

新学習指導要領とその趣旨を踏まえ、新しい時代に求められる障害のある児童生徒の育成を目指す資質・能力に基づく各教科等の指導内容や授業における指導方法等の改善・充実を図ることを目的とし、1年次の成果と課題を踏まえ、今年度は主に以下のような内容で取り組んだ。

- ①1年次から継続した取組として、本校では「育成を目指す資質・能力」を「つきたい力」と捉え、学校教育目標等の実現を目指し、児童生徒の実態や発達段階を踏まえた各教科等における「つきたい力」を明確にした。また、単元（題材）設定ありきであった従前の指導内容を「つきたい力」の視点から見直し、精選を図った。
- ②1年次の研究対象教科（国語や数学等）と他の教科や各教科等を合わせた指導の指導内容等の関連を教科横断的な視点から検討し、カリキュラム・マネジメントの充実を図った。
- ③各学部において「主体的・対話的で深い学び」とは何かを共通理解し、改善した指導内容を基に授業実践を行い、有効な教材や支援等を含めた指導方法の改善を図った。

(4) 研究の成果

- ①「つきたい力」の視点による指導内容の改善・充実
 - ・「つきたい力を考えるシート」を活用し、改善の過程を全教職員で共有しながら、「つきたい力」を意識した指導内容の改善・充実を図った。また、小学部・中学部においては、新学習指導要領の目標と内容を取り入れ、各教科で育成を目指す資質・能力をより意識して指導内容の改善を図ることにより、児童生徒の思考を促す授業づくりにつながるようになった。
- ②カリキュラム・マネジメントの充実に向けた取組
 - ・「つきたい力教科等間関連シート」を用いて、教科横断的に関連する単元等を線でつなぎながら、効果的な単元配列や指導内容について検討した。国語や数学等の教科で学んだ知識等を生活単元学習等の中で関連づけて学ぶことで、新たな気づきや課題を解決しようとする児童生徒の変容が見られた。
- ③「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善の取組
 - ・「主体的・対話的で深い学び」とは何か、各学部における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」についてキーワード等にまとめ、共通理解した。
 - ・学習指導案に「本単元における『主体的・対話的で深い学び』」という欄を設定し、より意識して授

業実践を行えるようにした。

(5) 課題と今後の方策

- ・「つきたい力を考えるシート」は各学部で作成していたため、学部間の接続と指導内容の連続性・系統性について十分に考えられているとは言えない状況にある。また、知的障害の状態により、特定の類型等においては、小学部から高等部まで同じ題材を繰り返し扱っていることや、興味や関心から選定した題材が生活年齢を考慮していないこと等が課題として挙げられた。そこで、「めいわ版・指導内容系統表」を作成し、学部を超えて協議しながら、適切な題材や内容の選定と指導内容の連続性・系統性を図る。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善においては、「深い学び」が課題として挙げられた。学びを深めていく児童生徒の姿について、目標設定や教員の指導・支援の妥当性について検証する。
- ・知的高等部では、教科と生活単元学習等との関連を図ったが、それは教育課程の一部の関連を検討したことに留まった。カリキュラム・マネジメントの充実に向け、教科横断的な視点を広げるとともに、作業学習等に「各教科の見方・考え方」を取り入れ、「つきたい力」が身に付く学びについて、検討し実践する。
- ・児童生徒につきたい力が身に付いたのかという評価の妥当性の検討についても課題がみられる。「児童生徒にどういった力が身に付いたか」を「つきたい力」との関連から検討し、授業ごとの目標に対する評価方法と評価規準を明確にする。また、授業以外の場面での児童生徒の変容を「学びの成果」として捉えるための多面的評価も試みる。